

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>「質実剛健」の伝統訓を基調にして、互いに切磋琢磨し、人間性豊かで社会的に自立した職業専門人の育成に努める。 ～感動あふれる学校づくり～ 生徒自らが主体的に様々な学校での活動において、高い目標に挑戦し、明るく元気で活力ある学校づくりを目指す。また、ふるさとに誇りを持てるよう、地域社会との連携を深めながら、地域の活性化に貢献できる人材を育成し、生徒の達成感・充実感を高める指導を行う。 教職員も健康でいきいきと働き、生徒一人一人としっかりと向き合いながら、生徒と感動を共有できるよう取り組む。</p>		
<p>2 スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来を切り拓く起業家精神を持ち、グローバルな視点から社会や地域に貢献できる生徒。</li> <li>・変化に対応することができる幅広い知識と教養、倫理観を備え、人間性豊かな生徒。</li> <li>・ビジネスに関する専門的な知識や技能を基礎に、課題解決力や情報活用力を身に付け、将来に向けた社会的自立を実現していく生徒。</li> </ul>	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスに関する専門的な知識と技術を習得し、より高度な資格取得に向けた、商業教育各分野の特性に応じた学びの推進。</li> <li>・地域の魅力を発見し課題の解決に取り組む「ふるさと学習」により、地域と連携した課題探究学習を通して、コミュニケーション能力、情報収集力、プレゼンテーション能力の育成。</li> <li>・互いに切磋琢磨し、自ら高い目標を設定して自己実現することができる主体性と積極性を育成するための学校行事や部活動等の活性化。</li> <li>・自己肯定感を高めるため、個々に応じた細かい指導や生徒一人ひとりの個性や長所を伸ばす支援の充実。</li> </ul>	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣、基礎的な学力を持ち、学校行事、部活動などを通して、充実した高校生活を送る意欲のある生徒。</li> <li>・自らの得意なことを伸ばそう、見つけようとする意欲があり、自己実現のために努力できる生徒。</li> <li>・商業に関する学びや資格取得に興味をもち、本校の「ふるさと学習」（地域課題解決探究学習）に意欲的に取り組む生徒。</li> </ul>

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇教務部 教育課程・学習指導</p>		
<p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>◇教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。 74.6%</li> <li>・先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。 75.7%</li> <li>・ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。 72.7%</li> </ul> <p>◇学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い。 86.1%</li> <li>・専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。 88.0%</li> <li>・授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。 81.1%</li> </ul>		
<p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業規律の徹底</li> <li>② 「確かな学力」を育むため、探究的な学びやICTを活用した学習活動の充実に向けた授業改善の推進</li> <li>③ 一人一人が主体的に学ぶ力を身に付けるための、指導方法や評価の工夫改善を行う。</li> <li>④ 「読む力」を向上させるための指導を充実させる。</li> <li>⑤ 若手教員の育成</li> </ol>		
<p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程委員会</li> <li>・教科会における授業改善に関する取組情報の共有化</li> <li>・校内研修担当者を中心とした研修組織</li> </ul>		
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 積極的なICTの活用による授業の効率化</li> <li>(2) 読書週間</li> <li>(3) 若手教員対象の研修</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の学習姿勢</li> <li>(2) 公開授業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領改訂に伴う授業改善</li> <li>・ICT機器の活用状況</li> </ul> </li> <li>(3) 研修後のアンケート</li> </ol>		

<p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT研修の実施</li> <li>・活用しやすいICT環境の整備</li> <li>・授業参観と意見交流</li> <li>・若手勉強会の実施</li> </ul>	<p>10 評価視点</p> <p>① 生徒の学習姿勢および組織的な取組みができたか。</p> <p>② ICT機器の利用率。</p> <p>③ 研修参加者の意識の変化はあったか。実際に行動できたか。</p>	<p>11 評価</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 成果・課題</p>	<p>○ICT機器の利用率が上昇。</p> <p>○公開授業週間を実施し、互いの授業を参観し授業評価をしあうことができる。また、生徒による授業評価より、指導方法や評価方法の工夫改善に努めることができる。</p> <p>○若手教員対象の研修会を実施し、若手教員同士が悩んでいることや授業で行っている工夫などを共有することができた。</p> <p>▲まずは「ICTを使うこと」を推進してきたので、今後は有効活用が課題。</p> <p>▲新学習指導要領での学習評価について、さらに明確化が必要。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ICTを使うこと」から「ICTを使って生徒の学習効果を高めること」への移行。</li> <li>・新学習指導要領での学習評価について、各教科で評価方法について確立していく。</li> <li>・若手教員対象の研修会は継続して行っていく。</li> </ul>		

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇生徒指導部 生徒指導・教育相談・特別活動</p>
<p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>◇生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。 91.5%</li> <li>・いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 83.3%</li> <li>・体罰はない。 87.7%</li> <li>・通信やホームページ、一斉配信メールサービス（すぐメール）等を用いて、様々な情報を速やかに伝えている。 85.2%</li> </ul> <p>◇特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師の講演や様々な体験活動等の授業以外の学習機会や学校行事の有無、又はその実施方法等について、生徒の安全を最優先とし、コロナウイルス感染症対策を講じて適切に計画している。 85.2%</li> <li>・ホームルーム活動の時間は、今後の自分にとって意義のある内容になっている。 77.9%</li> <li>・部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。 86.9%</li> <li>・生徒会活動が活発である。 68.3%</li> <li>・ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。 65.3%</li> </ul>
<p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 各学年団と協力し、「社会人として通用する商業生を育てる」取り組みを行う。</p> <p>② 教育相談の充実と外部教育相談機関との迅速な連携を図り、スピード感をもって事案の対応に努める。</p> <p>③ 生徒に有用となるアルバイトの体制へ見直す。</p> <p>④ L G B T Qに対応できる制服の検討をする。</p> <p>⑤ 生徒会及び各種委員会を活用し、学校を盛り上げられるような取り組みを行う。</p>
<p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年団、特別活動、生徒会との連携と学校行事の見直し</li> <li>・教育相談体制の充実とケース会議等の素早い対応</li> </ul>
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>
<p>(1) 社会人として通用する商業生を育てる取り組み</p> <p>(2) 教育相談の充実と外部相談機関との迅速な連携</p> <p>(3) アルバイトルールの見直し</p> <p>(4) 制服の見直し</p> <p>(5) 生徒会及び各種委員会を活用し、学校を盛り上げられるような取り組み</p>	<p>(1) 常識ある身だしなみ、年上とのコミュニケーション能力、集団生活への規範意識の向上</p> <p>(2) 困り感がある生徒への声かけ等の対応と情報共有</p> <p>(3) より実態に即したアルバイトルールの見直し</p> <p>(4) 創立100周年を迎え、社会人として通用する中津商業生を意識した制服の検討</p> <p>(5) 学校行事、各種委員会、MSL活動を生徒会中心に企画運営させ達成感を得られる教育的支援</p>

<p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間5回の頭髮服装指導と事後指導の徹底、身だしなみを自己管理できるようにするための対話指導</li> <li>毎週実施の生徒指導部会、各学年会、不定期での教育相談会での情報共有</li> <li>生徒会中心での学校行事や各学年会主催のLHRを上手く連携させ、生徒同士の横の繋がりを意識した教育的支援</li> </ul>	<p>10 評価視点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>身だしなみの再発防止ができているか</li> <li>教員による情報共有ができ、意志統一が図れているか。</li> <li>さまざまな行事において、生徒会、各HR委員各種委員会等で生徒による主体的な活動ができているか。</li> </ol>	<p>11 評価</p> <p>A (B) C D A (B) C D A (B) C D</p>
<p>12 成果・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年を中心に日頃から身だしなみ等が気になる生徒に対して、対話を心掛けた指導により、できるだけ生徒本人が納得し、自己管理することができるよう、身だしなみへの規範意識を高めることができた。</li> <li>○各学年、教育相談、特別活動課を中心に、生徒に「自他の存在を認め合い尊重する」という仲間意識や集団生活等での意識向上を踏まえ、社会人として通用する常識を身に付けられるような取り組みを推進することができた。</li> <li>▲一方で、社会人として通用する一般常識、マナー・モラルアップへの意識が不十分であり、自分で気づいて修正できる能力の向上が必要</li> </ul>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等や生徒指導的な事案（例えば、身だしなみ）を、生徒が自分（達）で「自主性」や「社会性」を意識し、考え、行動できるよう、教師側の共通理解を持ち、「社会人として通用する商業生の育成」を見据えた学校生活を経験させられる取組を充実させたい。</li> </ul>		

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇進路指導部</p>	
<p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。80.3%</li> <li>生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。81.1%</li> </ul>	
<p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の充実</li> <li>生徒が自ら希望する進路を実現できるよう、確かな学力や専門的な知識、技能、表現力を身につけるための指導の充実</li> <li>生徒の適性に沿った進路先の確保</li> <li>難易度の高い大学に挑戦し、合格できる実力を養成するための指導の充実</li> </ol>	
<p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業指導課、進学指導課</li> <li>進路指導委員会</li> </ul>	
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>進路講話をタイムリーに実施できるよう外部と連携し、組織的に取り組む</li> <li>全生徒対象に校内模試や面接指導を実施する</li> <li>全学年で進学ガイダンスを実施する</li> <li>国公立や難関私立大学への進学対応に取り組む</li> <li>継続事業の「キャリアパスポート」に取り組む</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>講話の実施状況とアンケート実施</li> <li>面接指導やSPIテスト等の企画・提案状況</li> <li>アンケートの実施、保護者の参加状況</li> <li>小論文指導や大学見学等の実施状況</li> <li>企画・進捗・完成度・実施状況</li> </ol>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p>	<p>10 評価視点</p>	<p>11 評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路ガイダンスの実施について <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は10月に大学・短期大学・専門学校24校、分野ごとの説明会を実施</li> <li>2年生は11月に企業9社と市役所、卒業生10名による講演と各ブースでの説明会を実施、進学は23コースによる体験実習等を実施</li> <li>3年生は8月に外部講師による就職面接指導や進学小論文指導などを実施</li> </ul> </li> <li>○面接指導について <ul style="list-style-type: none"> <li>2年生は2月に、進学については中京学院大学から、就職については専門学校より講師を招聘して実施</li> <li>3年生は6月と9月（就職希望者）と10月（進学希望者）に実施</li> </ul> </li> <li>○難関校への進学希望者への取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力テストや外部模試の実施（2年生6回、3年生4回）</li> <li>資料頒布会の実施</li> </ul> </li> <li>○継続事業への取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>学年会と協力し、「キャリアパスポート」（進路ノート）の活用</li> </ul> </li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの実施と分析は出来たか。</li> <li>大学、卒業生、関係業者等との連携をはかることが出来たか。</li> <li>進路諸行事の企画と提案状況</li> <li>インターンシップ実習先の確保と生徒アンケートの分析</li> <li>「進路ノート」の活用</li> </ol>	<p>A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D</p>

12 成果・課題	<p>○3年生就職希望者に対しては、コロナの状況下ではあったが、自分に合った進路選択を行わせ、ミスマッチや不本意入社等による離職者を出さない指導の充実を図ることが出来た。</p> <p>○3年生進学者についても現状に甘んずることなく、一段と高い目標に挑戦する意識づけと個々に対し、いろいろな入試方法や学習方法を説明し、補習等により入試対策を実施した結果、難関校に挑戦、合格することが出来た。</p> <p>▲コロナ禍での進路行事を工夫し、資料等を充実するなど可能な限りのフォローを行いながら実施する。</p>	総合評価
		A (B) C D

13 来年度に向けての改善方策案

- ・小論文指導について、来年度も教員研修を計画し、全職員での指導体制を目指す。
- ・看護・公務員希望者への指導が一部の教員の負担になっており、指導方法の見直しと改善を図る。
- ・進路関係行事については学年会と連携した組織的な運営を行うとともに、行事の精選についての検討を行う。

3 評価する領域・分野	◇商業教育 教育課程、学習指導、地域との連携等	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究の内容は自分にとって有意義である。(3年生のみ実施) 69.7%</li> <li>・先生は、社会人として通用する挨拶や言葉遣いなど、ビジネスマナーの指導に熱心に取り組んでいる。 89.1%</li> <li>・先生は、各種検定・資格取得の指導に熱心に取り組んでいる。 90.7%</li> </ul>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 確かな学力の育成を目指す</li> <li>② 心豊かな人間形成を目指す</li> <li>③ 地域に必要とされる学校を目指す</li> </ul>	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各コースに人員を割り振り、コース長を中心に運営する。</li> <li>・コース長会議や商業会議の実施(月1回)</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎基本の定着化と専門性の深化</li> <li>(2) 各種検定、高度資格、各種競技会へ積極的挑戦</li> <li>(3) 学力向上を支援するための、教育技術の向上</li> <li>(4) 基本的なモラルとビジネスマナーの定着</li> <li>(5) 意欲的、自主的、自律的な生活姿勢の育成</li> <li>(6) 開かれた学校作り</li> <li>(7) 教育環境や設備の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各種検定試験の合格者数や合格率各種競技会の結果</li> <li>(2) 保護者や外部の評価</li> <li>(3) 対外活動事業の成果</li> <li>(4) 生徒の学習に取り組む姿</li> </ul>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商検定試験などの合格者や合格率及び各種競技会での成果</li> <li>・授業規律の徹底、情報機器などの使用状況の把握</li> <li>・外部との連携事業、販売実習、出前授業、講演会等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各コースの検定目標や競技会での成果</li> <li>②授業時の挨拶・態度・授業終了後の教室状況</li> <li>③対外活動への参加状況・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> <li>(A) B C D</li> <li>(A) B C D</li> </ul>

12 成果・課題	<p>○継続した中学生への出前授業および小学生へのプログラミング教室の実施。</p> <p>○商業系部活動の競技会等での活躍。</p> <p>○多くのイベントに制限はあるものの、販売実習などは順調に行うことができた。各コースでwithコロナを工夫し、積極的に外部と連携し、探究学習に取り組んでいる。WEBマーケティングの分野にも学習を広げられているので、販売の場を広げていきたい。</p> <p>○地元企業等の外部講師を招いた授業を開催し、地元企業と連携し、生徒の意識向上や地域理解に効果があった。</p> <p>▲昨年に続きコロナ過の影響もあり、特に技能系検定試験(電卓、ワープロ)を中心に影響があった。また、日商簿記検定やITパスポート試験・基本情報試験などの高度資格も合格者を減らした。</p> <p>▲新カリキュラム対応の新試験に移行し、検定試験内容の変化などもあり対応に苦慮した。</p> <p>▲商業科目でのタブレット等の活用は進みつつあるが、有効活用が今後の課題である。</p>	総合評価
		A (B) C D

13 来年度に向けての改善方策案

- ・地域と連携した取り組みが増えており、課題研究の内容が充実してきている。今後も、探究型の授業を実施し、地域に貢献できる活動を行う中で、生徒の意欲や自主性を向上させ、課題解決力を育成したい。
- ・ICT環境が整備され、それを活用した授業展開が行われているが、今後は研修等を行い、どの職員もICTを効果的に活用した授業が行えるようにしたい。
- ・スマート専門高校事業で整備された施設を最大限生徒の活動に活用できるよう、外部との連携を図り、授業を発展させていきたい。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年11月18日

### 【意見・要望・評価等】

- ふるさと教育がここ数年になって劇的に変わったと感じた。特にコロナ禍で苦しみながらも、生徒たちと共に頑張っている事がよく伝わった。
- ふるさと教育の取組に「夢があつていい」と感じた。生徒たちは充実した学校生活を送れていると感じた。
- ふるさと教育は、どの事業についても地元企業や行政機関など、地域の方の協力があつて行えている。感染防止の制約の中ではあるが、今後も積極的に取り組み地域に貢献して欲しい。
- 今の子供達について、心が優しく向上心を表に出さず、受け身になっている人が多いと感じる。学校は課題研究などを通して、普通科高校では体験できないような、社会に一番近い体験を行っている。外部との繋がりや、プレゼンテーション発表などで心の強さは鍛えられている。今後も続けてほしい。
- 保護者や関係者へのアンケートで、「分からない」という回答が多い。保護者や関係者、地元の方々向けのInstagram等があつたらいいと思う。生徒たちは、学校で何をしているのか。生徒や教員が写真や動画を撮影し投稿すれば、アンケートの「分からない」という回答が減ると思われる。
- コロナ禍で、ICT環境が整い生徒たちの学習環境が劇的に変わったと感じる。
- 学校評価アンケートについて、保護者の目線から考えてもやはり「分からない」ことが多い。ホームページ等で紹介されているのは知っているが、保護者がホームページを見る機会が少ないが、積極的に情報発信を行って頂ければ保護者の安心にも繋がる。
- アンケート結果を見て、この結果だったらどこに出しても恥ずかしくは無いと感じた。
- 100周年の歴史を学ぶ機会も作り、生徒が将来を考えるきっかけにしてほしい。